

天使学園が養成している専門職業人とは

学校法人天使学園 理事長 近藤 潤子



本学園を創設された「マリアの宣教師フランシスコ修道会 (Franciscan Missionaries of Mary)」は、1898年に欧州から5名の修道者を熊本に派遣し、感染が恐れられ隔離されていたハンセン病者に献身的なケアを行いました。

また、1908年には7名の修道者が北海道開拓のために医療機関のないこの地で貧しい過酷な生活をしてきた人々のために派遣されました。修道者の方々の懸命な努力によって、^{せりょうじょ}施療所が開設されました。これが天使病院の始まりです。

この病める人々、貧しい人々、さらに広く他者に奉仕をする精神を私たちの基本的な姿勢としています

修道者の方がたが日本での奉仕を決意しマルセイユを出港する際に祈りをささげたノータルダム・ド・ラ・ガルド大聖堂の祭壇の天井画には、聖母マリアのMの頭文字がはためく帆船が荒波を航海しています。聖母マリアに導かれ世の荒波を乗り越え初志を貫徹するようにと天使大学の校章のモチーフになっています。(7面のコラム参照)

1935年、教皇ピオ11世がローマに集まった看護修道者の方々に「最高の知識と技術をもって奉仕しなさい」と説かれ、高いレベルの看護職の養成を勧められました。

これを受けてF.M.M修道会は1947年、天使大学の前身である札幌天使女子厚生専門学校を設立し、学校教育法施行と同時に日本最初の短期大学に改組しました。

その後、大学への転換を経て、日本で唯一の助産専門職大学院の開設、さらに大学院看護栄養学研究科を設置して現在に至るまで、天使学園は「その時代の最高の知識と技術をもって人々に奉仕する人材の育成を使命として受け継いでいます。

修道者たちの看護は「心からの看とり」であり、シスターのケアから多くのことが伝えられました。シスターが傍らにいてくださると痛みが和らぐ、シスターとひとときを過ごした後、安らかに死を迎えられる方の例など、看護理論が開発されていなかった昔から、心に寄り添うケアを大切に実践されていました。

高度な知と技に基づく他者への奉仕は、愛に基づくものであります。シスター寺本松野 (fmm) は「愛は、他者に関心をもち、その人の善のために自分を超えて働きかけることです」と言われました。聖フランシスコの平和の祈りには「慰められるよりは慰めることを、理解されるよりは理解することを、愛されるよりは愛することを」とありますが、他者へ「働きかけることが専門職業人のあり方です。

身近な友人や日常出会う人々への挨拶に始まり、在学中、多くの行事等を通して、積極的に人と関わったり、協働したりすることを学ぶことも専門職業人として大切な要素なのです。

天使大学は、看護師、保健師、助産師、管理栄養士など専門職業人の養成を使命としています。

看護三職は、生命の始めから、安全に生まれ成長発達し、充実した人生を生き、健康長寿で過ごすことができるように健康生活を支援する1次予防活動や、健康障害の時には苦痛の軽減をはかり、速やかな回復を助け、死が避けられないときには安らかな死を迎えられるように、生活を支援する専門職業であり、管理栄養士は食・栄養の面から生きることを支援します。



札幌に派遣された7名の修道女

専門職業人は、人生の様々な段階にある人びとに寄り添いケアをします。「ケアリング」とは、生活を变化させるニーズをもっている人に働きかけ、自分のケアによって相手の方の目標とされた病状や生活が変化することをとおして、自分自身も変化、すなわち、成長します。他者のために生き、奉仕させていただくことを通して、自分自身も、成長を続けます。

更に、専門職業人は、自らの職業を進歩発展させて行く責務があり、高められた知識・技術をもって、いつも高いレベルのケアを提供していきます。

「生涯学び続け、最高の知識と技術を維持し、愛を持って専門的奉仕にあたる職業人」を育成するために天使学園は、たゆまぬ努力を重ねています。

出会いと親睦のゼミ

4月5日（月）から一泊二日の宿泊研修「出会いと親睦のゼミ」を北海道立青少年体験活動支援施設で行いました。入学式から数日、お互いの名前も知らなかった新入生たちも、自己紹介やレクリエーションで親睦を深めます。この行事以降に天使大学生としての学生生活が本格的にスタートします。今回は、参加した1年生に感想を聴いてみました。

自分の看護をみつきたい



看護学科1年

松井 奈々

私は、一泊二日の「出会いと親睦のゼミ」に参加してきました。そこでは、出会ったばかりの新たな友人と交流を深め、これからの大学生活や将来の目標について考えることができました。

1日目の最初の講話では、学長が「建学の精神」についてお話してくださいました。

「愛」は、人と接する上で一番大切なことであり、愛がなければ人に優しさや思いやりを持ち接することができません。このことを

常に頭に入れて行動することで、心からの思いやりや優しさのある行動ができるのではないかと思います。

夕方には、ケン神父が夕の祈りを行ってくださいました。私は、祈りの時間はとても儀式的なものだと思って緊張していましたが、ケン神父が明るく和やかな雰囲気でもミサを進行してくださったため、リラックスして参加することができました。

そして、これからの私たちの学校生活が充実したものになるように全員で祈りました。

2日目のグループワークでは、それぞれが今の時点での将来の目標やなりた職業をあげ、模造紙に書き出し、これからの学校生活をどのように過ごしていくべきか話し合いました。友達の意見を聞くことで、自分にはなかった考えを知り、自分自身の目標を再確認することができました。

この出会いと親睦のゼミでの講話やグループワークを通して、私は、建学の精神と大学で学ぶことの意義を学びました。この学んだことをもとにこれからの大学生活4年間で自分がどのような看護をしたいのかを見つけていきたいです。



夕の祈り

人として成長するために



栄養学科1年

本多 美聡

天使大学に入学して2日後、私たち1年生は「出会いと親睦のゼミ」が行われる深川で1泊2日を過ごしました。

宿泊施設に着き、初めに武蔵学長の「天使大学の建学の精神について」という講話を聴きました。建学の精神である「愛をとおして真理へ」には、「自分だけではなく他者を大切にす愛の先に真実の生き方がある」という意味合いがあるという話を聴き、この建学の精神を大切にしようと思う気持ちが強くなりました。

学科別の自己紹介は、皆お互いの紹介を真剣に聞き、温かな笑いが起こったりするなど和やかな雰囲気で行われたので、緊張せずに自己紹介をすることができました。夕方のレクリエーションでは、1年生全員で体を動かし、すぐに打ち解け合い、楽しい時間を過ごすことができました。

夕の祈りでは、「新しい人生の誕生日」という意味でキャンドルを持

ち、ケン神父と祈りを唱えました。お祈りをする中で、落ち着いた気持ちになりました。

2日目の鹿内教授の講話では、「感即動」というキーワードがとても心に響きました。「感じたら即動きなさい。感じるだけの人間は沢山の。」という言葉聞いて、これは今すぐにでも、そしてこれから先も意識すべき大事なことだと思いました。

グループワークでは、同じ専門職者を目指す仲間として自分の夢や目標、学生生活の抱負を伝え合いました。仲間の意見を聞くことで、自分の考えを深めることができました。

出会いと親睦のゼミは、学生生活のスタートとしても仲間との絆を深める上でも、とても有意義なものになりました。常に目標に向かって、人としても成長できるように努力して、学生生活を送りたいと思います。



グループワーク中の1コマ

新任教員の紹介

助産研究科 助教 勝山 千勢

看護学科 教授 小澤 芳子 教授 新谷 恵子 教授(特任) 高木 廣文
教授 中田 かおり 教授(特任) 山本 勝則 助教 小島 有沙
助教 福田 早織

栄養学科 助手 金野 ゆみ

教養教育科 教授 鹿内 信善 (2017年8月から)

海外研修に参加して

移民の国の文化に触れて



看護学科3年

平田 純菜

カナダという国に行くことになり、1番最初に浮かんだのは移民が多い国だなということでした。

しかし、日本で過ごしてきた私にとっては移民が多いということ自体、馴染みのないことで、イメージがあまり湧いてきませんでした。

いざ、カナダについて生活を送ってみると本当にいろいろな国の人が共存している場所だなと感じました。その国ごとの訛りのある英語や、生活習慣がふつうにみられること。これは日本ではあまり日常的にみられるものではないのでとても新鮮で、印象的でした。

トリニティーウェスタン大学の学生との会話の中で、「カナダの料理といえばなんなのか。」ということ聞いたとき、学生は「いろいろな国の料理がある。それがカナダ料理かな。」と笑いながら言いました。この言葉を聞



現地大学生とのランチタイム

いたとき、この国ではいろいろな国・地域の人が住んでいることが当たり前なだと感じました。

そこにはきっと、人種や国境を超えたつながりがたくさんあり、それがカナダの人にとっては当たり前のこ

となのです。

この「当たり前なこと」にすら、私はカナダに行くまではよくわかっていなかった気がします。

私は今回の海外研修を通して、共存するということ、共に生きていくということはこういうことなのかと、学ぶことができた気がします。

そして、移民が多いからこそ、カナダの人々は観光客やうまく英語を話すことができない人にも優しいです。

これはカナダ人の人柄もあるのでしょうか、それでも拙い英語に対してもし丁寧に対応してくれる優しさは不慣れな地で行動する私たちにとってはとても心があったまるものでした。この優しさの当たり前も海外研修に参加しなければ気づかなかったのかもしれない。海外に行くからこそ分かる当り前のありがたさや大切さを今回の研修で学ぶことができました。

この当り前の価値観は今後、看護師になるにあたっていい影響を与えてくれるものであると確信しています。



サイモンフレーザー大学にて



現地で勤務する日本人ナース・プラクティショナーの講話

広い世界を見て知ったこと



栄養学科3年

藤原 蒼泉

私は、海外研修に参加することについては、軽い気持ちで決めていました。仲のいい友達も行くし、学生のうちに海外に行くのもいいかもしれないというぐらいの気持ちです。そして、初めての海外がカナダでした。

実際にカナダに行ってみると、風景が素敵なこともありましたが、私が一番素敵だと思った点はだれもが自由に過ごしているところでした。カナダでは、日本と異なり、当たり前のように

いろいろな人種や国籍の方が生活していますが、誰一人として、特別な人と気にしていません。

日本において、特に集団生活では周りの人と異なる行動をとっていると悪い意味で注目されることが多いと思います。しかし、カナダでは人と異なる行動をとっていても何も気にされませんし、そうかといって無視をしているというわけでもありませんでした。



ブッチャードガーデン

多くの人が生活してい

る国では、“普通”という概念が人により異なることもあると思いますが、一人一人が自信を持って行動をしているので、おかしなことをしていると思わず、誰が何をしても気にならないのだと思います。

カナダの人々は、とても堂々としていて、その姿のよさに“自分の世界はとても小さいものだった”と感じ、帰国後は、自分の思っていることを当たり前と思わず相手のことを受け入れることのできる人間になりたいと思いました。

私はこれから学外実習に行く機会も増えていき、様々な人と接する機会も増え、時には、意見の対立や相手を理解することが難しいと感じる時もあると思いますが、その時には、相手の気持ちに立って考え、相手を受け入れながら話し合える人になりたいと思います。

安易に決めて海外研修の参加ですが、行くことによって得られた経験はとても大きなものでした。これから先、この経験を活かしながら自分の人生をより良いものにしていきたいです。



現地大学生とのランチタイム



サニーヘルスセンターでの調理場見学

新任教授研究室訪問



看護学科 教授 小澤 芳子

4月より老年看護学に就任しました小澤です。研究としては認知症の人と家族に関する研究を中心に行っていますが、現在は科学研究費で「若年認知症の親を持つ子どもへの支援」についても研究を進めています。

認知症になっても生きられる社会の構築のために自分には何ができるかを日々考え、様々な人とつながりながら、誰でも生きられる社会を目指しています。

学生たちには、講義や実習等の体験を通して、看護の持つ力や楽しさ、深さを感じとれる感性を磨いて欲しいと思っています。そのためには、何よりも大学生活の中で主体的に学び、自らの問いを作り、考え続ける姿勢を身につけることを期待しています。



看護学科 教授(特任) 高木 廣文

専門は「疫学」とその関連分野になる。とくに研究方法論を専門としているので、多様な疾病のリスク評価に関する研究、例えば癌や糖尿病、また特定疾患などの難病の研究を若い頃は行っていた。生活習慣調査を故日野原重明先生と20年間くらいは行っていた。一度、看護分野から離れて統計理論に夢中になっていたのだが、統計学ソフトのHALBAUくらいがその成果で、いまも細々と販売されている。JICAの関係で、1999年からタイのHIV/AIDS問題や、ミャンマーのハンセン病対策、ヨルダンの女性のエンパワーメントなどのいくつかのプロジェクトに関わるようになってから、学生や院生をタイやオーストラリアで教育・研究の指導を行うようになった。その点からいうと、国際保健・看護学が現在の専門ということもできる。こう見ると取りとめがないようだが、よく言えば、研究方法論が専門なので、その応用として、色々なことを行っている。現在は、スピリチュアルケアに興味があり、そのため日本人の宗教の研究(勉強)中である。



看護学科 教授 中田 かおり

母性看護学の学修は、安全な妊娠・出産・育児に向けたケアではありません。リプロダクティブヘルスの視点から、さまざまな年代の女性とその家族の健康の維持・促進に向けたケアを探求します。私はこれまで、学士課程における助産学・母性看護学教育と、周産期の正常性を維持・促進するための研究、思春期の子どもたちを対象とした健康教育に取り組んできました。これからも自身の活動が、お母さんと赤ちゃんの健康で安全な暮らしにつながるよう、つとめたいと思います。

看護師は、資格を取得した後も、知識・技術・感性を磨き続けなくてはなりません。とくに豊かな感性は、心を動かされる体験と「本物」との出会いによって養われると思います。学生の皆さんには大学での勉強に留まらず、さまざまな場所で、たくさんの「本物」に触れてほしいと思います。そして、学び続ける力、その基礎を、大学生活を通して、ともにつくりていきたいと思います。



看護学科 教授 新谷 恵子

私はここ10数年来、健康障害レベルの成人のひとに焦点を当て、中でも慢性的な病をもつひととその家族の看護支援を研究しています。また、様々な健康レベル、発達段階の人を対象に主体的な健康管理、QOLの質向上、セルフケア能力の向上に関する看護支援の研究を実施してきています。

今後は地域に貢献できる高度実践看護師、研究者、教育者の育成を図るべく大学院教育に全力で取り組んでいく所存です。最後になりましたが、私が天使大学での教鞭を選択したのは、教職員が丸となり、カトリック系大学を土台とした人間教育として、力を注いでいる大学だからです。



看護学科 教授(特任) 山本 勝則

4月に精神看護学担当教員として着任いたしました。天使大学着任以前は、精神科臨床看護師18年、看護短大9年、精神看護学担当教員18年と極めて地味な職歴を送ってまいりました。多少役に立つかと思うのは国公立、大学短大専門学校、常勤非常勤、北海道本州九州全てで働いたことがあることです。

己の非力も顧みず抱負を述べさせていただくと、学部で精神看護学教育については、知識を講義、技術をシミュレーション、体験を実習による三本柱で構成するカリキュラムの構築です。大学院については、精神専門看護師コースを立ち上げて、論文コースはアカデミックな世界、専門看護師コースは高度実践看護師の世界への入り口とすることです。

学生の皆さんに期待することは、現在自分が持っている良さを保ち続けてほしいことです。赴任後本学の学生に接して感じたことは、独善や追従のない態度です。皆さんの気持ちの良い矜持を保ち続けてほしいと思います。



教養教育科 教授 鹿内 信善

教育心理学と教育学が専門です。『【創造的読み】への手引き(勤草書房)』『看图作文指導要領-「みる」ことを「書く」ことにつなげるレッスン(淡水社)』『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ協同学習の新しいかたち●看图作文レポーター●(ナカニシヤ出版)』『改訂増補 協同学習ツールのつくり方いかし方-看图アプローチで育てる学びの力- (ナカニシヤ出版)』などの著書を通して研究成果を発信しています。

天使大学は4つ目の勤務校になります。これまで、工学部・教育学部・人間関係学部で勤務してきました。大学での教員歴は41年になります。看護・栄養学部で教壇に立つのは初めてですので、大きな期待をもって、昨年8月に天使大学に着任しました。真摯に学びに取り組む学生さんたちの姿に支えられて、新しい年度を迎えることができました。これからも天使大学の教育に力を尽くしていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

2017年度卒業式・2018年度入学式

卒業証書・学位記授与式が執り行われました

2018年3月15日(木)、2017年度卒業証書・学位記授与式が執り行われました。卒業生・修了生はアカデミックガウンと角帽に身を包み、武蔵学長から一人一人学位記を受け取りました。ご両親、教職員をはじめたくさんの人から祝福と励ましを受け、卒業生・修了生193名は、建学の精神「愛をとおして真理へ」を胸にこの学び舎から次の舞台へと歩みを進めました。



卒業証書・学位記授与式



入学式

2018年度入学式が執り行われました

2018年4月3日(火)、2018年度天使大学・大学院入学式が執り行われました。看護栄養学部看護学科102名、栄養学科102名(3年次編入学3名含む)、計204名、大学院看護栄養学研究科12名、助産研究科17名、計29名の新入生が天使大学の門をくぐりました。

タンザニアより神父様が来訪されました



アレックス神父様

2018年5月9日(水)、東アフリカに位置するタンザニアより、アレックス神父様が来訪されました。神父様は、タンザニア北西部にあるタボラ州の教育、保健、職業訓練などを有するカトリック・タボラ大司教区で10の保健医療施設を統括する保健事務所の責任者をされています。

タンザニアは20年ほど前から経済発展を続けていますが、いまだ乳幼児死亡率、妊産婦死亡率が高いことや、マラリヤやHIV/エイズ感染症など、保健医療分野ではまだまだ多くの問題をかかえています。また、医療従事者の不足は大変深刻です。タボラ大司教区では、将来、看護学校の設立が検討されていることから、今回の本学見学となりました。

大学院助産研究科のクラスでは、タンザニアでのお産の様子をはじめ、母子保健の現状についてお話しいただき、院生からの質問にも答えていただくなど、有意義な交流をもつことができました。

看護学生作文コンクール

第9回全国看護学生作文コンクールに看護4年生が入賞しました。

全国看護学生作文コンクール実行委員会(国際看護支援センター)の主催する第9回全国看護学生作文コンクールで2,200を越える応募作品の中から、看護学科4年次高橋実里さんの「側に寄り添う看護」が優秀賞医歯薬出版賞を受賞されました。

高橋さんは、幼い時から看護師の働いている姿に憧れを持ち本学に入学され、現在は、救急救命を行える病院に就職活動を頑張っています。2年次の臨地実習で「援助や技術を行うことだけが看護ではない。患者さんの側にいること、心の支えとなることも看護である」ことを学んだ経緯が作文にありますので、ご一読ください。



看護学科4年 高橋実里さん

公開講座

2018年度

天使大学・北海道科学大学 連携公開講座

道民カレッジ連携講座 健康・スポーツコース 7単位 全体テーマ:いのちみつめて

医療、薬学、看護学、栄養学の各分野から、生活に役立つ情報をわかりやすく解説します。

日程: 2018年8月23日～9月20日 ※8月30日(木)のみ、会場は北海道科学大学
毎週木曜日 ①、③、④、⑤18:00～19:30、②10:00～11:30

回	日程	講演題目・講師
①	8月23日(木)	「みること」の教育と心理 天使大学看護栄養学部教養教育科 教授 鹿内 信善
②	8月30日(木)	感染症予防とワクチン 北海道科学大学薬学部薬学科 教授 前田 伸司 (会場:北海道科学大学)
③	9月6日(木)	健康寿命をのばすセルフマネジメントとピアサポート 天使大学看護栄養学部看護学科 講師 佐々木 雅彦
④	9月13日(木)	健康寿命を延ばそう～お薬との上手な付き合い方～ 北海道科学大学薬学部薬学科 講師 藤本 哲也
⑤	9月20日(木)	「がん」のはなし 一口腔癌を中心に 天使大学 看護栄養学部栄養学科 教授 進藤 正信

定員: 一般80名〔先着順〕

受講料: 全5回分 1,000円(郵便局所定の用紙で振込)

申込期間: 2018年7月2日(月)～7月31日(火)

申込方法: 郵便局所定の振込用紙をご使用ください。参加希望される方の郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、電話番号を記入し、**通信欄に必ず「公開講座」と**明記のうえ、上記期間内に、下記の口座、加入者宛に受講料1,000円をお振り込みください。

口座番号 **02710-5-6907**

加入者名 **天使大学**

主催: 天使大学・北海道科学大学

後援: 札幌市教育委員会、公益財団法人北海道生涯学習協会

お問合せ先: 天使大学公開講座担当: 学務課

☎ 011-741-1051 e-mail: c-koza@tenshi.ac.jp

「天使学園のルーツを辿る旅」を振り返って

総務課長 白石 澄枝



港から丘の上の Notre-Dame de la Garde 大聖堂を望む

天使学園創立70周年記念事業の一つとして、2018年3月23日から3月30日までの8日間、近藤理事長を団長として同窓生、教職員を中心に総務14名で「天使学園のルーツを辿る旅」を実施いたしました。

天使学園は、1947年「マリアの宣教者フランシスコ修道会」により、札幌天使女子厚生専門学校として設立された学園です。1908年ハンセン病者のために熊本に、北海道開拓民のために札幌に、さらに日本の各地に派遣された修道女の皆様が船出されたマルセイユから旅はスタートいたしました。

マルセイユのシンボルとして海拔154メートルの丘の上に建つノートルダム・ド・ラ・ギャルド大聖堂の祭壇を彩るモザイク画には、波高い海に浮かぶ船、その帆と空に輝く星、そしてマリアのMが、天使学園校章の由来となったメダイヨンの荘厳さに一同大感激でした。



Notre-Dame de la Garde 大聖堂内

聖フランシスコゆかりの地であるアッシジでは、聖フランシスコの墓前でVan Hoai神父様の司式によるごミサに与ることが出来ました。ケン・スレイマン神父様のお取り計らいに参加者一同感謝いたしました。



聖フランシスコの墓前でのごミサ

「FMMマリアの宣教者フランシスコ修道会」本部があるローマ修道院を表敬訪問した際には、修道女の皆様の手作りクッキーとお茶の温かいおもてなしを受けました。敷地内に広がる回廊を巡りながら資料館や図書館等の施設をご案内いた

だきました。最後に、創立者マリ・ド・ラ・パシオンの墓前で天使大学校歌と聖歌「みははマリア」「あめのきさき」を歌い、70年の歩みへの感謝を捧げることが出来ました。

カトリック教会の総本山であるバチカンでは、フランシスコ教皇様のサンピエトロ大聖堂上部のキリスト像一般謁見に参列する機会をいただきました。席についてから教皇様のご登壇まで3時間近くありましたが、サン・ピエトロ広場に満ち溢れる熱気と興奮に、あっという間に時間が過ぎました。会場内には、国際フォーラムのためにローマを訪れていた世界各国の大学生が半数を占める中、次々とグループ名がアナウンスされ、私達「Tenshi College Sapporo Japan」の名前も読み上げられ、やや控えめながら立ち上がり、旗を振り喜びを表しました。教皇様は、翌日から始まる教会の典礼暦の中でも最も重要な「過ぎ越しの聖なる三日間」の意味につ



サンピエトロ大聖堂上部のキリスト像



バチカンにて

いて説かれました。聖なる三日間は、キリスト教信仰の基礎となる出来事を記憶して、大きな感謝と共にそれを祝い、自分たちの受けた洗礼の意味を新たに作る時でもあると話されました。

「PER CARITATEM AD VERITATEM(愛をとおして真理へ)」の精神を建学の精神として、これからも職業教育を継承していく私達が、そのルーツを辿りながら、その精神に触れ、より一層理解を深める機会になったと感じております。この感動を共に分かち合えた参加者の皆様、そしてこの旅を実現へと導いてくださった天使学園と多くの関係者の皆様に心から感謝いたします。



マリアの宣教者フランシスコ修道会本部の中庭

シスター藤本美智子先生帰天のお知らせ



長年、天使女子短期大学食物栄養学科で栄養学科長を務められていましたシスター藤本美智子先生が2018年4月15日の日曜日の朝、シスター達が祈るロザリオの祈りに見送られ、静かに天の御父のもとに旅立っていかれました

生前、神様から豊かな賜物を頂いていた彼女は優れた能力を生かして、マリアの宣教者として人々を喜ばせ、神様の愛を伝えてこられました。

調理の腕前は抜群であり、天使短大で彼女の教えを受けた卒業生は今もその教えを大切に社会で奉仕しておられます。

どうぞ皆様シスター藤本の永遠の安患のために続けてお祈りくださるようお願いいたします。

(享年85歳 修道生活59年)

愛の息吹きに包まれて

天使大学後援会会長 小原 まり子

愛と平和のシンボルの町、アッシジの巡礼の道を歩きました。

フランシスコの生涯は、人間も動物も自然も神の創造物であり、それを讃え、肯定する「生」の思想に貫かれておりました。聖堂のフレスコ画や宣教の足跡の数々の遺品、平和の祈り、清貧の生き方に魅了されました。

墓前でミサに与り祈りました。

マルセイユ・バシリカ聖堂のメダイオンに描かれている植物や小鳥のモザイクにフランシスコの「鳥の説教」のエピソードをふっと思い出しました。

ローマのマリアの宣教者フランシスコ修道院本部を表敬訪問、創立者、マリ・ド・ラ・パシオンの生涯は、ハンセン病者への愛とシスターの養成に力を注いだ行動力に感銘しました。

墓前で感謝の祈りを捧げました。

修道院を巡り、世界中で召命を遂行されたシスター達の遺品や各国語の蔵書など、他者のために働くシスターの姿と、母校で奉仕の精神を

指導して下さいましたシスターと重なりました。

なんとも言えない優しさに包まれ、「愛をとおして真理へ」のふるさとに里帰りできたことに感謝いっぱい旅でした。



創立者マリ・ド・ラ・パシオン

— マリアの宣教者

フランシスコ修道会本部の訪問—

天使大学同窓会会長 野原 純子

ルーツを辿る旅に同窓会の一員として参加しました。羽田空港でグループの顔合わせを行い、8日間の旅が始まりました。

振り返ればあっという間のヨーロッパ、いずこの地も思いつく深い内容でした。



マリアの宣教者フランシスコ修道会本部内小聖堂にある創立者の石棺

修道会本部訪問について触れます。本部ではシスター達の歓待を受け貴重な一時でした。創立者であるマリ・ド・ラ・パシオンの石棺の前で、祈り、校歌・聖歌を合唱しました。その後、修道院の中の図書館・資料室などを案内して頂き、かつ丁寧な説明を受けました。シスター達の使命を改めて考えさせられた時間でした。

修道院はローマ市内にあってとても静寂で落ち着いた雰囲気建物でした。つつまじやかな生活の中から、少しずつ施設の拡張を行った努力に驚き、また使命とは言い、東洋の端の日本に姉妹たちを送り出した勇気と決断に感銘をうけました。

お茶とクッキーのもてなし、その手作りのクッキーを札幌修道院へのおみやげの一部にしました。ローマの思いが伝わったと思っています。

グループの方達とは、共に食事をとり、ミサや祈りなど時間を共有し貴重な交流を行いました。

良き旅人達との生活は素晴らしいものでした。

有難うございました。楽しい旅に感謝！

きしょう 徽章(校章)は、お守り



Notre-Dame de la Garde
大聖堂内のモザイク画

天使学園は、マリアの宣教者フランシスコ修道会により、設立されました。

そのマリアの宣教者フランシスコ修道会が日本での宣教を始める契機となったのは、1898年に5人のマリアの宣教者フランシスコ修道会の修道女が、非人間的な生活をおくっているハンセン病者を看とるために熊本へ呼聘されて来日されたのがはじまりです。

5人のマリアの宣教者フランシスコ修道会の修道女は、母国を離れる最後の港、南仏マルセイユの丘の上にあるNotre-Dame de la Garde大聖堂(見守りの聖母大聖堂)で、未知の日本の生活の祝福と長崎までの40日間の船旅の安全を願う祈りをささげて、出発しました。

学校法人天使学園 理事長 近藤 潤子

本学の校章は、このNotre-Dame de la Garde大聖堂内の祭壇の上にあるモザイクの帆船の絵を図案化したものです。船の帆の青と白は、聖母マリアとマルセイユ市の紋章の色を表し、中央のMは、聖母マリアの花文字です。

マリアの宣教者フランシスコ修道会の日本での教育事業の徽章は、このモザイクをモデルにしており、本学に集う一人ひとりの人生の航海を聖母マリアが守ってくださり、「愛をとおして真理へ」の道へ導かれることを願う祈りがこめられています。

この徽章が校章であり、天使大学を示すシンボルであると同時にお守りであるとも言えるでしょう。



本学の徽章

天使大学キャンパス整備事業の概要について

本学園は、昨年の学園創立70周年を契機として更なる教育環境の充実と学生生活を支えるキャンパス整備に取り組むこととし、第一期工事が本年度から開始されますので、概要をお知らせします。

●キャンパス整備のコンセプト

本学の原点は、修道女たちの献身的な奉仕活動でした。計画策定に当たり教会や修道院を敬い、カトリック大学らしさを表現するための中庭回廊型キャンパスの整備や地域に開かれた大学、看護と栄養の専門職業人を養成する大学として、学生の学びを優先した施設づくりに配慮しています。

○新校舎には、最先端の学修環境として、ラーニングcommons、図書館の整備、看護実習室、栄養実験室等の充実を図るとともに狭隘さを解消した大講義室を整備します。また、体育館、講堂、食堂・カフェについては合理的な兼用を想定しています。

○今年12月には、2号館及び体育館の跡地で新校舎の建設が始まり、竣工は2020年2月末を予定しています。2020年3月には、新体育館で卒業式・学位授与式が実施できる予定です。

また、2020年4月からは第二期工事として既存校舎等の改修を実施する予定ですが、詳細は今後、お知らせします。

○本学が、今後100周年に向け持続的に発展するため、今回のキャンパス整備事業は「はじめの一手」としての意味を持ちます。

本学の関係の皆様には、工事期間中、ご不便をおかけしますが、ご理解ご支援をお願いいたします。

(事務局長)

2017年度 進路・就職状況

学科・研究科	看護学科	栄養学科	大学院助産研究科	大学院看護学専攻	大学院栄養管理学専攻
就職決定者	76	85	11	5	1
進学決定者	9	0	0	0	0
進路希望無し	3	2	0	0	0
卒業者	88	88	11	5	1

【看護学科】就職・進学先

看護師		進学
国立病院 ・独立行政法人国立病院機構 北海道医療センター ・独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター 大学病院(私立) ・北里大学病院 ・杏林大学医学部付属病院 ・順天堂大学医学部附属順天堂医院 ・順天堂大学医学部附属静岡病院 ・昭和大学附属病院 ・聖マリアンナ医科大学病院 ・聖路加国際病院 ・東海大学医学部付属病院 ・東邦大学医療センター 大森病院	大学病院(国公立) ・北海道大学病院 ・札幌医科大学付属病院 ・旭川医科大学病院 ・千葉大学医学部附属病院 公立・公的・社会保険関係法人の病院 ・JA北海道厚生連 札幌厚生病院 ・JCHO北海道病院 ・KKR札幌医療センター ・国家公務員共済組合連合会 斗南病院 ・小樽市立病院 ・釧路赤十字病院 ・国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 ・静岡県立静岡がんセンター	看護系大学院 ・天使大学大学院 助産研究科 ・天使大学大学院 看護栄養学研究科 看護学専攻 保健師コース 看護系大学院 ・札幌医科大学 助産専攻科 ・北海道教育大学函館校 看護教諭 特別別科 ・北海道立旭川高等看護学院 地域看護学科 ・神奈川県立衛生看護専門学校 助産師学科
一般病院 ・愛心メモリアル病院 ・旭山病院 ・札幌積心会病院 ・札幌東徳洲会病院 ・札幌徳洲会病院 ・札幌西円山病院 ・札幌ハートセンター(札幌心臓血管クリニック) ・札幌北楡病院 ・札幌麻生脳神経外科病院 ・JR札幌病院 ・千歳第一病院	進学 ・手稲深仁会病院 ・天使病院 ・日鋼記念病院 ・東札幌病院 ・柏厚生総合病院 ・がん研究会有明病院 ・湘南藤沢徳洲会病院 ・新松戸中央総合病院 ・千葉メディカルセンター ・日立総合病院	

【栄養学科】就職先

自治体 ・北海道(管理栄養士) ・札幌市(栄養士) ・中富良野町(管理栄養士) ・帯広市 ・岩手県 ・常陸大宮市 教育機関 ・北海道教育委員会(栄養教諭) 委託会社 ・エムサービスジャパン株式会社 ・シグナス株式会社 ・日清医療食品株式会社 北海道支店 ・富士産業株式会社 北海道事業部 ・株式会社LEOC	福祉施設 ・社会福祉法人 希望の里 ・社会福祉法人クビド・フェア 調剤薬局 ・株式会社ライフ 病院 ・愛全会 ・朝里中央病院 ・市立旭川病院 ・H・N・メディック ・大黒胃腸内科病院 ・北見赤十字病院 ・社会医療法人孝仁会 ・腎友会岩見沢クリニック ・製鉄記念室蘭病院	保育園 ・札幌北陽保育園 ・さより第2保育園 ・認定こども園北都 ・前田保育園 一般企業 ・石屋製菓株式会社 ・伊藤ハムデリー株式会社 ・医療システムズ株式会社 ・オカモトグループ ・株式会社サングリント陽園 ・株式会社ショクセン ・株式会社セコマ ・株式会社ツルハ	・社会福祉法人高砂福祉会 ・株式会社モード・プランニング・ジャパン ・株式会社コピーアンドアソシエイツ ・世田谷いちいち保育園北ウイング ・株式会社モロオ ・株式会社LAVA International ・コープフーズ株式会社 ・オカモトグループ ・生活協同組合 コープさっぽろ ・第一生命保険株式会社 ・日本食品分析センター ・明治安田生命保険相互会社
--	---	--	--

【大学院】就職先

所属：助産基礎分野 ・北海道大学病院 ・KKR札幌医療センター ・東京女子医科大学病院 ・公立大学法人 横浜市立大学附属病院 ・日本赤十字社医療センター ・恩賜財団済生会 横浜市南部病院 ・国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院 ・社会福祉法人恩賜財団大阪済生会野江病院 ・日本赤十字社 長浜赤十字病院	所属：助産教育分野 ・医療法人社団エナレディースクリニック ・公益財団法人東京都助産師会館 母子保健研修センター助産師学校 所属：看護栄養学研究科 栄養管理学専攻博士前期課程 ・NTT東日本札幌病院	所属：看護学専攻保健師コース ・清水町 ・当別町 ・洞爺湖町 ・中頓別町 ・朝日新聞健康保険組合
--	---	--

入試結果

看護学科			栄養学科			看護学専攻			栄養管理学専攻 博士前期課程			栄養管理学専攻 博士後期課程			助産研究科助産基礎分野			助産研究科助産教育分野		
試験種別	受験者数	合格者数 合格率(%)	試験種別	受験者数	合格者数 合格率(%)	試験種別	受験者数	合格者数 合格率(%)	試験種別	受験者数	合格者数 合格率(%)	試験種別	受験者数	合格者数 合格率(%)	試験種別	受験者数	合格者数 合格率(%)	試験種別	受験者数	合格者数 合格率(%)
公募制推薦	53	35 1.5	公募制推薦	43	38 1.1	一般前期	8	8 1.0	前期	0	0 -	前期	0	0 -	推薦	5	4 1.3	前期	1	0 -
社会人	2	0 -	社会人	0	0 -	一般後期	2	1 2.0	後期	1	1 1.0	後期	3	3 1.0	前期一般	7	7 1.0	後期	1	1 1.0
一般	293	85 3.4	一般	89	45 2.0				総計	1	1 1.0	総計	3	3 1.0	前期社会人	4	4 1.0			
センター利用	132	36 3.7	センター利用	68	16 4.3										後期一般	1	1 1.0			
			編入学	4	3 1.3															

あなたの声を
お聞かせください

天使大学報「天使」では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりを目指しています。
ご意見、ご感想、取り上げてほしい話題等ございましたら、下記あて先までお寄せください。

あて先 〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30 天使大学広報委員会 tel 011-741-1051 fax 011-741-1077



天使大学

看護栄養学部/看護学科・栄養学科
大学院/看護栄養学研究科
助産研究科(専門職学位課程)

第25号 2018年6月8日 発行 天使大学広報委員会

http://www.tenshi.ac.jp